

資料3-18. 三重県における赤潮発生状況(平成27年1月～12月)

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積(km ²)	発生水深(m)	最高細胞数(細胞/ml)	漁業被害	情報源
1 (K-1)	6.29-7.2	熊野灘北部 (引本湾から尾鷲湾)	<i>Prorocentrum</i> sp. aff. <i>dentatum</i>	6.29に引本湾で <i>P. sp.</i> (aff. <i>dentatum</i>)赤潮による着色が見られた。着色域は湾中央部の古里沖が中心であった。7.2には尾鷲湾の尾鷲港内でも着色がみられた。7.3観測時には、両湾とも着色が解消していた。最高細胞密度は41,650細胞/ml(引本湾ムナシ、2m層)であった。	不明	2m	41,650	無	漁業者 三重県水産研究所・尾鷲水産研究室
2 (S-1)	7.6-7.7	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterosigma</i> <i>akashiwo</i>	7.6に <i>H. akashiwo</i> 赤潮による着色がみられた。着色は多徳島付近のみであった。7.7まで持続し、最高細胞密度は34,500細胞/ml(横山島西、0.5m)であった。	不明	0-0.5m	34,500	無	三重県水産研究所, 真珠研究会, (株)ミキモト
3 (S-2)	7.10	志摩度会 (的矢湾)	<i>Vicicitus globosus</i>	7.10に的矢湾で <i>V. globosus</i> 赤潮による着色がみられた。着色域は渡鹿野島西であり、最高細胞密度は230細胞/ml(1m)であった。	不明	1m	230	無	漁業者、三重県水産研究所

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (細胞/ml)	漁業被害	情報源
4 (S-3)	7.27-8.27	志摩度会 (英虞湾)	<i>Karenia mikimotoi</i> <i>Chattonela marina</i>	2種の複合赤潮。 <i>K. mikimotoi</i> 赤潮は7.27に立神浦で確認された。初認は7.7であった。4m層以深を中心として出現範囲を広げていき、8.10には湾内の南東部を除く水域で赤潮となった。8.14まで持続し、最高細胞密度は3,290細胞/ml(8.4、宮ヶ崎、4.7m)であった。赤潮解消後も8.26まで確認された。 <i>C. marina</i> 赤潮は7.27に湾口部で確認された。初認は4.20、次に確認されたのは6.23であり、7.13以降は続けて確認された。7.31には立神浦で <i>K. mikimotoi</i> との複合赤潮が形成されているのが確認される一方、湾口部では減少した。その後は立神浦等湾奥部を中心として増減を繰り返し、8.27まで持続した(立神浦での複合赤潮は7.31-8.14)。最高細胞密度は2,210細胞/ml(8.24、伝六前、2m層)であった。赤潮終息後も9.14まで確認された。なお、両種とも7.22に大王崎及び鎧崎の表層で3-4細胞/mlの密度で確認されており、志摩度会の各湾に流入して赤潮になった可能性が否定できない。 また、 <i>K. mikimotoi</i> 赤潮発生時にプランクトンの極大層の溶存酸素が過飽和状態になっている場合がみられた。逆に底層では3mg/L以下の貧酸素状態となっており、赤潮が影響していた可能性が考えられる。	不明	2-8m	K. m. 3,290 C. m 2,210	無	三重県水産研究所, 真珠研究会, (株)ミキモト
5 (S-4)	7.30-8.7	志摩度会 (的矢湾)	<i>Karenia mikimotoi</i> <i>Chattonela marina</i>	2種の複合赤潮。 <i>C. marina</i> は7.30に安乗で赤潮が確認された後、同地点近辺で確認された。8.2まで持続し、最高細胞密度は70細胞/ml(7.30、安乗、5m)であった。 <i>K. mikimotoi</i> は7.31に安乗漁港内で赤潮が確認され、その際に <i>C. marina</i> との複合赤潮を形成していた(安乗付近の複合赤潮は7.31-8.2)。8.7まで持続し、最高細胞密度は208細胞/ml(8.7、三ヶ所、7.7m)であった。	不明	2-B-1m	C. m. 70 K. m. 208	無	三重県水産研究所, 真珠研究会

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (細胞/ml)	漁業被害	情報源
6 (S-5)	8.18-25	志摩度会 (阿曾浦)	<i>Chattonela marina</i> <i>Karenia mikimotoi</i>	2種の複合赤潮。 <i>K. mikimotoi</i> 赤潮は8.18にあちの浦とこの浦で確認された。8.24まで持続し、最高細胞密度は6,100細胞/ml(8.21、この浦奥部、5m)であった。 <i>C. marina</i> 赤潮は8.24にあちの浦とこの浦で確認され、この浦奥部では <i>K. mikimotoi</i> との複合赤潮を形成した。8.25まで持続し、最高細胞密度は389細胞/ml(8.24、この浦奥部、3m)であった。 なお、8.24にあちの浦および道方では3m以深で貧酸素状態(溶存酸素量が3mg/l以下)であった。この赤潮が貧酸素化の原因の一つであった可能性が考えられる。	不明	1-8m	K. m. 6,100 C. m 389	無	南島水産種苗センター
7 (S-6)	8.19	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>Chattonela antiqua</i>	8.19に五ヶ所湾礮浦で <i>C. antiqua</i> 赤潮が確認された。8.27にはすでに終息していた。最高密度は10細胞/ml(礮浦、2m)だった。	不明	2m	10	無	南勢水産種苗センター
8 (S-7)	8.19-24	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>Karenia mikimotoi</i>	8.19に五ヶ所湾の田曾浦で <i>K. mikimotoi</i> の赤潮が確認された。8.21には宿浦で赤潮化が確認され、8.24には相賀浦大池で着色が確認された。8.27-28の観測時には赤潮は解消していた。最高細胞密度は7,020細胞/ml(8.24、相賀浦大池、0m)であった。	不明	0-5m	7,020	無	南勢水産種苗センター
9 (I-1)	8.21	伊勢湾(鈴鹿市地先)	<i>Karenia mikimotoi</i>	8.21に鈴鹿市地先(若松~白子)で <i>K. mikimotoi</i> 赤潮が確認された。最高細胞密度は、26,800細胞/ml(白子港、表層)であった。24日観測時には、赤潮は解消していた。	不明	表層	26,800	無	三重県水産研究所・鈴鹿水産研究室
10 (S-8)	12.7	志摩度会 (阿曾浦)	<i>Akashiwo sanguinea</i>	12.7にあちの浦で <i>A. sanguinea</i> 赤潮が確認された。最高細胞密度は311細胞/ml(あちの浦中央部、1m)だった。	不明	1-5m	311	無	南島水産種苗センター

【注】(1)「整理番号」は、発生時期の順に一連番号を記載し、()内には発生海域毎に一連番号を記載した。

(I、S、K)はそれぞれ伊勢湾、志摩度会、熊野灘北部の各海域を示す。

(2) 2あるいは3海域にまたがって発生した場合は、各海域のそれぞれに発生したものとして扱った。従って、例えば2つの海域にまたがって発生した場合は、1つの発生に対して2つの整理番号を与え、発生件数は2件とカウントした。

(3)「発生時期」は、発生が確認された日から消滅日までを記載することを基本としたが、同一海域で発生、消滅(一時的な細胞数の減少)を繰り返したものについては、最初の発生から最後の発生まで(完全な赤潮の終息まで)を1単位として記載した。